

雪道走行の安全運転アドバイス

12/1/2017
京丹後市基地対策室

冬期における交通事故防止対策のため、雪道走行の安全運転アドバイスを20項目にまとめましたので、交通事故「0」を目指し、安全運転に努めましょう。

I 車に乗る前に

(1) 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の装着

12月1日～3月下旬までは、スタッドレスタイヤを全車輪に装着しましょう。

(2) 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の寿命はおよそ3年

保管状態により異なりますが、タイヤのゴムは経年劣化するので、安全推奨年限の3年を目安にタイヤを買い換えましょう。

(3) 出発時の準備

車両に積もった雪がブレーキを踏んだ際にフロントガラスに滑り落ち視界が遮られることがあるため、必ず落としてから出発しましょう。また、ガラスの凍結はお湯や解氷剤などで解氷してから出発しましょう。

(4) 天気予報の確認

天気予報をこまめに確認し、特に夜間・早朝は冷え込むので凍結には十分注意しましょう。

(5) ゆとりを持った行動

出発時間を少しでも早め、スピードは控え、ゆとりを持った運転をしましょう。

(6) 車に積んでおくと役立つ物

スコップ・スノーブラシ（スクレーパー）・タイヤチェーン・ジャッキ
ブースターケーブル・防寒具（毛布）・作業手袋などは必需品です。

II 雪道の種類で走り方も変えましょう

(7) 道路との境界を示す矢印や反射板ポールを目安に走行

積もった雪で路肩が分かりにくい場合は、道路との境界を示す矢印や反射板ポールを目安に走行しましょう。

- (8) アイスバーンは雪道以上に滑るので十分注意が必要。
圧雪路面は車の走行で固められ磨かれてツルツルになった状態のため、雪道以上に十分に注意し走行しましょう。

Ⅲ 雪道の基本的な走り方

- (9) アクセルもブレーキも6分目
急発進、急減速は事故を起こす原因です。オーバースピードと思ったら、最低限のブレーキングで済ませましょう。(速度の目安は20~40km/h)
- (10) 車間距離は十分に
滑ることを前提に運転し、車間距離はいつもの2倍以上とることで事故を防ぐことができます。特に、下りの坂道はブレーキが効くまでの距離が長くなるので十分注意しましょう。
- (11) 幹線道路を中心に走行する
交通量の多い幹線道路であれば除雪されていることが多いです。できるだけ大通りを中心に走行しましょう。
- (12) エンジンブレーキは万能ではない
オーバースピードによりアクセルを放した瞬間、エンジンブレーキが効きすぎて急ブレーキ状態になる場合があるので十分注意しましょう。
- (13) 雪が吹雪いたときはロービーム
雪が吹雪くと見通しが悪くなり、ハイビームにしたくなりますが逆効果です。それよりも十分に減速して走行し、必ず対向車に視認してもらうためにフォグランプ等もあわせて点灯しましょう。

Ⅳ 道路の形状にも注意を

- (14) カーブの曲がり方
十分な減速によりカーブに進入し、アクセルを踏みすぎないようにしましょう。特に下りカーブはスリップにより対向車線や道路外へはみ出す事故が多くなるので、十分注意しましょう。
- (15) 風通しのよい橋の上や陸橋、トンネル出入口付近が危険
風通しのよい橋の上や陸橋、トンネルの出入口付近は、アイスバーンで特に危険なため十分注意しましょう。

V 駆動方式による特徴

(16) FF車（前輪駆動）の特徴

直進安定性は優れていますが、オーバースピードによってハンドルを切っても曲がりきれない場合があるので十分注意しましょう。

(17) FR車（後輪駆動）の特徴

アクセルを踏めば踏むほど車はクルクル回りますので十分注意しましょう。

(18) 4WD（AWD）車の特徴

4WDが勝るのは、駆動力と脱出性能だけです。ブレーキ性能は普通の車と変わらないので過信は禁物です。

VI 駐車の方法にも工夫を

(19) 駐車時のワイパー

ワイパーをそのままにしておくと、水分と一緒にゴムが凍結したり、雪の重みで折れる可能性もあるので、駐車時にはワイパーを上げておきましょう。

VII その他

(20) 運転に自信がなければ公共交通機関等の利用を

雪道の運転に自信がなければ、公共交通機関等を利用して移動しましょう。